



菊池 秀明
(令和クラブ)

質問項目

- ・2025年問題の高齢者認知症について
- ・観光問題について
- ・甲子柿の課題について

圃場（ほじょう）：農作物を栽培するための場所のこと。

甲子柿をトップブランドとして育成は

生産者へ可能な限り支援策を講じる

議員 現在及び2025年の当市の認知症の状況と認知症対策は。

保健福祉部長 人口減少とともに要支援・要介護認定者が減少し、高齢者における認知症の割合は増加すると推計し、「認知症初期集中支援チーム」を設置し、認知症高齢者の早期発見・受診につなげる取組を行っている。

議員 認知症による社会問題の発生状況および増加する社会問題対策は。

保健福祉部長 認知機能障害とともにさまざまな精神的・身体的・社会的な問題

が現れ、生活上での混乱や周囲とのトラブル等の問題が発生する。したがって認知症の方が尊厳と希望を持つて認知症とともに生きる「共生」を目指した地域づくりの取組を推進する。

議員 平成28年、釜石市観光振興ビジョンが策定され前期4年経過した結果は。

産業振興部長 観光客を迎えるための基盤づくりに取り組む、様々な体験型プログラムを造成し、観光客のほか教育旅行や企業研修などに提供することで、釜石の魅力を発信してきた。

議員 今年度の甲子柿の品薄原因及びその対策は。

議員 前期4年の目標は市民が地域の魅力を再発見である、その結果は。

市長 ミートアップ釜石事業を展開し、釜石ならではの23の体験プログラムを用意し、観光客に地域の魅力を提供している。

議員 橋野鉄鉱山の入り口付近の仮設トイレや駐車場、入り口の整備は。

世界遺産課長 橋野鉄鉱山の保存・整備・活用に関する計画に基づき、遺跡の保全や周囲の景観に配慮した修復・整備を実施する。



橋野鉄鉱山入口付近

産業振興部長 平成2年度生産者は90名、生産量は約32トンで、直近生産者は22名へ減少し、前年の暖冬や今年の長雨の影響により生産量は例年10トンの6割く7割であったことから、生産組合も危機感を持ち、剪定講習会等の開催や圃場の適切な管理に取り組む。

議員 甲子柿のトップブランドとしての育成は。

産業振興部長 市内全域への圃場の再生や活用、担い手を確保と市として可能な限りの支援策を講じる。

また、柿室の温度等の管理する機械化の支援は、生産者の意向を踏まえた十分な意見交換が必要である。